



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第52巻第
6号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第52巻第6号). 泌尿器科紀要 2006, 52(6): 514-514

ISSUE DATE:

2006-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/113857>

RIGHT:

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

禁煙推進に向けて大きな動きが始まった。まず、日本禁煙科学会が設立された。理事長は本紀要名誉編集委員長の吉田修先生である。禁煙の必要性を学際的な立場から科学的に立証したり、禁煙推進マニュアルなど国民に向けての情報発信や啓発活動を行うそうである。京大病院も今年4月から敷地内禁煙となった。患者サービス委員のK助教授は禁煙パトロール隊員でもある(何故医師が禁煙パトロールまでやられるかは疑問ではある)。さらにニコチンパッチも6月から保険適応となる。愛煙家には申し訳ないが、たばこも一気に200円くらい値上げしたら、さらに効果は倍増するであろう。

という私もかつてはヘビースモーカーであった。当時の吉田教授に「たばこ臭い。止めなさい。」と何度も注意された。家の窓を拭くと雑巾が真っ黒になり、家内からは「子供の健康に悪いから止めて。」と懇願された。結局、一大決心をして止めることが出来たのは、ニュージーランド留学を機会にしてからである。止めてもう15年になるが、この15年間1本も吸っていない。ライターの置き場所を気にする必要もないし、机の上が灰で汚れることも無いので楽である。禁煙出来ない教室員が数人いるが、これを機会に是非決心してほしい(よけいなお世話かもしれませんが、愛煙家の泌尿器科教授の方にも一大決心をお願いします)。

(小川 修)